



2011 年度 特定非営利活動法人 NPO コミュニケーション支援機構 総会審議用

2010 年度活動報告および 2011 年度活動計画

2011 年 6 月 13 日

起草者：代表 加雅屋拓

なお、2010 年度収支報告および 2011 年度予算案については別紙にて起案いたします。

2010 年度活動報告

1. 団体全体計画

【計画】

2011年1月より「運営会」を設置。10人規模の体制で、a-con 全体がどのようにしたらより活気のある NPO サポートを行っていただけるか、ということ議論し、どんどん実行に移す体制になりました。

5月からは各プロジェクトごとに運営会担当者がリエゾンとしてつき、プロジェクト毎の推進・連携を強める予定。

事務局では定例会の活性化・定例会会場の利便性を高めるために取り組んでいく。

また、NPO のサポートに興味がある人が早期に a-con のことを理解し、ほかのメンバーに溶け込めるように工夫をこらす「なじみプロジェクト」も、事務局と連動し、強力に活動中。

オリエンテーションおよび、WEB 上での作業システムの充実・洗練化に取り組んでいく。

【報告】

- ・懸案であった WEB サイトが完成。
複数のメンバーで WEB を更新できるようになりました。
- ・昨年まで 3-4 人規模の運営メンバーが 10 人規模の運営会に。
ただし、多忙なメンバーが多かったこと、事務作業のタスクはやはり進行しづらい、ということで何人かのメンバーは幽霊メンバーとなってしまいました。
- ・各プロジェクト毎の運営メンバーリエゾン制は、うまく機能しませんでした。
改善が必要です。
- ・なじみプロジェクト
毎月の定例会の前にはかならず数人の新規メンバーがあり、充実したオリエンテーションを行うことができました。

2. NPO サポート事業

【計画】

2010年6月中に、新規で NPO サポートをはじめめるためのフローを整備・公開予定。
チームメンバー募集、サポート要件の整理などをスムーズかつ明快に行えるようにする。
それにより、今後年内にはサポート NPO を 10 団体程度に増加させたい。
また、a-con メンバーの不足により、直接的なサポートを行えない場合でも、

その NPO がもともと持っている組織を活性化するためのファシリテーションや講演を積極的に行っていく。

7月からは、アクションポート YOKOHAMA の若手社会人による NPO 広報サポートプロジェクトが a-con のオリジナルの組織運営・作業進行フレームである VOSA フレームを適用する形ではじまる予定

また、NPO のサポートするための各プロジェクトチームに専門性を付加する各プロジェクトのネットワーキングも積極的に行っていく。

【報告】

- ・サポート団体数は急激に増加し、終了したプロジェクトも合わせると、10 団体（プロジェクト）以上に膨らみました。
ただし、いくつかのプロジェクトについては、メンバーの途中脱退や震災の影響などもあり、サポート先の事務局の動きともどもに、途中で作業が止まっているものもあります。
- ・アクションポート YOKOHAMA のプロジェクトについては、無事 1 年目を終了し、2 年目に突入します。
- ・専門プロジェクトについては、具体的にどのように動くか、NPO のサポートプロジェクトとのタイミングが合わせづらかったこともあり、活発な活動ができませんでした。

3.NPO 知見・コミュニケーション知見の啓発事業

【計画】

- ・ Monthly a-con
現在はプリンター出力および PDF による配布を行っているが、助成金を活用し、印刷物として、より多く NPO 関係者に読んでもらえる NPO×コミュニケーションの専門誌として飛躍する。
- ・ a-con ゼミナール
タイムリーなテーマを取り上げ続けることで、NPO・コミュニケーションのテーマ設定、トレンドづくりの核となっていく。既出テーマでも、視点・講師を変えて新しい取り上げ方をしていく。

【報告】

- ・ Monthly a-con は「ぐらん草の根基金」から、当面の印刷費、発送費の助成をしていただき、「NPO-CO」として大きな飛躍を遂げました。東京以外の NPO サポートセンターからも「ぜひ置かせてほしい」との要望が次々とくるなど、NPO×コミュニケーションの専門誌として確実に伸長しています。

- ・ a-con セミナールは、「東日本大震災:支援活動現場報告とコミュニケーションができること」を開催するなどしましたが、1年間の開催セミナー数は数回にとどまりました。また、これまで運営を担ってくれていた方が外国に赴任するなどして、事務局の体制が手薄になるので、テーマを設定し、実現にこぎつけるためのコーディネーターが必要です。

●全体総括

【計画】

2010年は a-con が本格的に腰を据えた活動をするために体制を整えていく初年度にあたります。とはいえ、体制固めだけを行うのではなく、積極的に NPO サポートを行っていくことで、より大きな価値を提供できる団体となれるように、ジョギングしながら取り組んでいきます。

【報告】

2010年に設定した目標の達成度は7割方達成されたといえます。一方で、仕組みが整いはじめた分、みえはじめた課題も多くあります。「コミュニケーション」をつくっていくことは、具体的な形にするまでが大変です。形がみえにくい時期、ボランティアがプロジェクトの計画通りに物事を進行させ、モチベーションを保つことの困難さも、今年は痛感した年になりました。次年度はメンバーが多忙になったとき、どのようにモチベーションを保ち、楽しく、価値のあるプロジェクトをつくっていけるか、みんな考えていきたいと思えます。

2011 年度活動計画

2011 年、a-con はより、ユニバーサルに。

その結果、より伝わり、より動きやすい集まりに。団体というよりも、「動き方を共有する集団」を目指します。ひとりひとりがモチベーション高く自律して動き、ひとりひとりが魅力的にみえることが、次の新しい仲間を呼んでくると考えるからです。

そのために必要なことは、逆説的にも思えますが、様々な形での「対話」だと考えます。多忙な中でも、サポートする NPO と、そしてプロジェクトの仲間同士で、「対話」がたくさんできる仕組みをつくっていきたいと思います。

1. 団体全体計画

a. 運営委員の多様化

現行の運営委員としてコミット高く活動しているメンバーに加え、他の団体でリーダーとして活躍している方、大学生にも運営委員に加わっていただきたいです。その結果、a-con の運営をより開かれたものに、そして機動的なものになるようにします。

b. a-con が目指す社会の可視化

a-con が活動していくことでどのような社会が実現するのか、よりわかりやすく可視化するために、みんなで議論し、まとめていきます。定量的な目標も取り込んでいきます。

c. 他の団体とのコラボレーション

a.b.を実現することで、より明確に、共有の目標を持つ他の団体とコラボレーションしやすくして、1+1=2 以上の成果を出します。

2. NPO サポート事業

a. 「対話」が多いプロジェクト進行を。

サポート先の NPO とも、プロジェクトメンバー

「対話」こそがプロジェクトの価値をより厳密に規定し、サポート先 NPO 事務局、a-con メンバー双方の

困難なプロジェクトでも進めていくモチベーションを産み出します。
そのための具体的な施策を導入します。

b.プロジェクトが生む「価値」に、よりフォーカスしたプロジェクトを。

a-con がコミュニケーションに関わることによって、その NPO にどのような「価値」を産み出したか。それは、募金額で表されるかもしれませんが、関わるボランティアの数かもしれません。

なんらかの形で定量化、明文化し、そこに向けて、プロジェクトメンバーの動き方や、プロジェクトの期間、サポート先の NPO との関わりを決定して進行していくようにします。そのための仕組みを整えていきます。

c.専門グループの活性化を。

PR のグループや WEB のグループ、デザインのグループなど、スキルや志向が同じ人たちが集まって、活発に活動できるようにします。その上で、他のグループと融合して価値があるコミュニケーションサポートができる有機的な体制をつくります。

3.NPO 知見・コミュニケーション知見の啓発事業

- ・ NPO×コミュニケーションについて先進的な提言をして、この分野に取り組む人たちが常に意識する存在となる。
震災後、ますます未来がみえにくくなっている NPO の活動について、コミュニケーションがどのようにサポートしていけるか、最新の提言をし、興味がある人たちが交流できる場として、NPO-CO、a-con ゼミナールを位置づけていきます。